

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）

スペシャルセッション（SS）討議内容の記録

セッション名：もっと使える ITS へ	
日付： 6月 5日（土）曜日，セッション時間： 16:00～17:30	
オーガナイザー名（所属）：山田晴利（東京大学） 司会 家田仁（東京大学）	
討 議 内 容	○実践的 ITS からの提言（中間報告）について (国内外での連携、人材育成) <ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの現場での実戦経験から、官民学ネットワークの強化は重要で、最後は人と人との信頼関係に尽きる。ボトムアップ型の ITS が重要だという点は同意。</li><li>・アジア諸国への技術移転は、大学に来た留学生が国に戻って ITS を推進してくれていて、海外からオファーがくるなど、着実に進んでいる感があるが、国内での人材育成が進んでいない印象。海外から学ぶ部分もあるのではないかな。</li><li>・学や官の横串となる何かが必要ではないか。部署の壁を越えるやり方。トップダウンとボトムアップを上手く組み合わせていくなど。</li><li>・各所で同じ目的の研究をしているが、インタラクションがない。例えば寒冷地でまとまって成果を取り纏めるなどがあっても良いのではないかな。</li><li>・国際化の視点は重要だが、中国では砂利トラックが街中を走っているなど、日本とは全く環境が違うことを念頭に置くべき。</li></ul>
	(少子高齢化) <ul style="list-style-type: none"><li>・中山間地域や、都会でも昔のニュータウンがオールドタウンになっており、これら高齢者が住んでいる地域のモビリティをどうするか。</li><li>・高齢者は結構お金を持っており、引きこもってもいない人も多い。</li><li>・反面、移動手段がなくなり、子供にも頼れなくなってくると引きこもってしまう。使える情報機器等があると良いのだが。</li><li>・意外と若年層のモビリティが活発でなくなっている。クルマ離れ、旅行離れなど。</li><li>・福祉の観点も必要。</li></ul>
	(ビジネスモデル) <ul style="list-style-type: none"><li>・通信費等が払えずにバスロケが廃止となった会社があるが、運用を賄えるビジネスモデルが必要。 ①税金を投入するのであれば、その妥当性、②適切な料金設定、③広告などの別収入など。</li><li>・価値の高い情報であれば、情報料をとっても良いのではないかな。混雑税などのコンセプトとは別の話として、付加価値に対する支払いという意味で。</li></ul>
	(その他) <ul style="list-style-type: none"><li>・2020年までのロードマップ案が示されているが、もっと長期でも良いのではないかな。</li><li>・新たな研究課題という面では、民間企業と話をすると V2V（車車間）に関心が高い。</li></ul>